

令和6年度 第1回 山都町国民健康保険運営協議会議事録

1 日 時 令和6年8月21日（水） 18:00～20:10

2 場 所 山都町役場本庁 2-1 会議室

3 出席者 （委員）

区分	氏名	出欠
公益代表	吉川 美加	○
	西田 由未子	○
	藤原 秀幸	
	後藤 壽廣	○
被保険者代表	竹本 有紀	
	山本 剛生	○
	木野 由美	
	坂本 昭則	○
保険医又は保険薬剤師代表	瀬戸 浩司	
	山口 省之	○
	豊田 彩	
	坂梨 光	○

（保険者側・事務局）

町長 坂本 靖也

健康ほけん課 課長 木實 春美

税務住民課 課長 高橋 尚孝

健康ほけん課 国保年金係 係長 藤本 朋広

健康ほけん課 健康づくり係 係長 飯法師 直美

税務住民課 徴収係 小崎 康護

税務住民課 課税係 堀 裕介

清和支所 住民福祉係 係長 春木 優一

蘇陽支所 住民福祉係 係長 玉目 知穂 他2名

（傍聴者）

なし

4 質疑要旨

議事（１）報告事項			
① 令和５年度山都町国民健康保険特別会計決算（見込み）について			
	※質疑なし		
② 熊本県の報告及び取組等について			
吉川 委員	本町は３つ全ての運営検討部会の構成団体となっているが、これは希望によるものか。	事務局	本町が希望した結果として、県が了承したものです。
山口 委員	令和５年度のみなし健診の実績について、本町は５６件の情報提供票送付に対して、医療機関からの提供は３件であった。これに対する町の所感を伺う。	事務局	令和５年７月から事業が開始され、対象となる被保険者の認知・理解に時間を要した。また、医療機関での検査実施日と、最終的な医師の総合判断日まで最大３箇月可能であることから、令和５年度中に総合判断まで至らなかった事案もあるかと思われる。
吉川 委員	県との会議では様々な意見が交わされているものと察するが、これら意見を踏まえて、県全体の課題は何だと考えるか。		県全体の１人当たり医療費がこれから先も増え続ける見込みであり、これをいかに抑制していくかに尽きる。 県の国保特別会計の単年度収支は黒字だが、これが今後も維持されるという保証はない。県だけでなく、管内市町村の理解と協力が必須である。
③ 保険料水準の統一について			
西田 委員	「資料６」の７頁の保険料水準統一前後のイメージについて、モデル世帯の条件について解説していただきたい。	事務局	夫婦はともに４０歳以上で介護第２号被保険者とする。夫婦の合計課税所得は３００万円とする。保険料の算定において資産割は用いていない。所得割、均等割及び平等割の設定値は、県内の市又は町村の平均値としている。

吉川 委員	今年度から保険料率を改定した市町村の事例について紹介されたが、率の見直しの背景は様々な要因がある。医療費が低い市町村でも将来の統一を見据えて今のうちから引き上げしなければならない実態がある。 今後、町が税率見直しの議論をするに当たってどのような視点に立つべきとお考えか。	事務局	これまではこの町の医療費だけに着目したが、これからは県全体の医療費の動向に注視したうえで、町として統一以前に保険税率を見直す必要があるか否か、また、見直す場合は、時期や税率の設定のルールやスケジュール感などについて今の時期から検討しておくのが望ましいと考えます。 御船町と大津町の税率引き上げの背景の違いについて紹介しましたが、見直しをするには議会、住民の理解を得ることが最大の難所です。スケジュールに十分な余裕を準備し、見直しに向けた議論を活発化させたいと思います。
④ 令和6年度の主な取組等について			
	※質疑なし		
⑤ 国保制度に関する最近の注目すべき動向について			
	※質疑なし		

山都町国民健康保険運営協議会規則の規定により、ここに署名する。

議事録署名委員

議事録署名委員